

第62回

## 法律研究部で活躍する若手に聞く～弁護士業務部 編～

聞き手：新進会員活動委員会委員 永里 桂太郎 (66期)



新進会員活動委員会では、各分野で活躍している若手弁護士へのインタビューを行っています。今回は、弁護士業務部にてご活躍されている廣石和也会員（65期）にお話を伺いました。

### 廣石 和也 会員 (65期)

登録1年目より弁護士業務部に所属。現在、事務局長。

— 弁護士業務部の概要について教えてくださいませんか。

弁護士業務部の活動は多岐にわたりますので、一言で説明するのがなかなか難しいのですが、弁護士の業務に関することであれば何でも対象にして研究を行っている研究部です。

基本的には、当部に所属している弁護士が各自勉強したいテーマを持ち寄って勉強会や、外に出て有識者に話を聞きに行くなどしています。この研究部では、研究部として扱う一貫したテーマが決まっている訳ではなく、その時の部員の希望に応じてテーマを決め、研究を行っているところが他の研究部とは違う大きな特徴だと思います。名前から弁護士業務改革委員会などと混同されることもあるかと思いますが、弁護士の業務に関することであれば何でも研究をするという研究部ですね。

当部の歴史は古く、先輩弁護士からは、一番歴史が古い研究部の一つであると聞いています。

— どのような活動を行っているのでしょうか。

具体的には、毎月1回の定例会を行っています。時間は18時から2時間程度です。

定例会では、基本的に、一つテーマを決めて、報告者が

発表をしたり、皆で議論をしたりしています。定例会には、毎回10人弱参加しています。ここ最近の参加者は60期代の弁護士が多いですが、30期～50期代の弁護士も参加しています。

定例会のテーマに関しては、所属しているメンバーの興味に従い、話し合っ決めていきます。そのため、テーマは、「信託法」、「インターネット選挙に関する公職選挙法改正」、「スポーツ法」、「マイナンバー制度」、「顧問契約の受任方法」など本当に多岐にわたっています。

勉強会だけでなく、他の弁護士の事務所訪問や有識者に会いに行くなど、積極的に外に出ていくのも特徴です。昨年は、興味深い活動をされておられる弁護士の法律事務所にお邪魔し、色々なお話をお伺いしたり、また、参議院議員の事務所にお邪魔し、公職選挙法改正の影響などを伺いました。

— 弁護士業務部の特徴を教えてくださいませんか。

この研究部では、自分が「これをやりたい!」と主張すると、上の期の方がすぐに「いいね!」と賛成してくれることが多く、積極的に新しいことを部員皆で取り組むといった風通しの良さがあります。期を問わず積極的に提案することで、自分が興味を持っていることを他のメンバーと一緒に勉強できますし、自分が提案したものでなくても、他の弁護士がどういう興味を持っているのかを知るとともに、自身とは全く違った視点から学ぶこともできて、とても

勉強になるところが長所だと思います。皆で一緒に勉強をしながら、弁護士としての能力を磨いていくという形の研究部ですね。

定例会で勉強をしていく中で、この分野をさらに掘り下げたいという意見が集まれば、特別部会を設置して、勉強を深めていきます。以前には、その研究の成果を、『Q&A 金融ADR活用ガイドブック』（日本加除出版、2012）という本にまとめ出版したこともあります。

勉強だけでなく、忘年会や暑気払い、定例会後の飲み会などもあり、皆で仲良くやっています。

#### —— 弁護士業務部に参加するきっかけを教えてください。

私は、司法修習後、若い弁護士が多い事務所に入りましたので、いわゆるボスや先輩から弁護士「業」における様々なことを学ぶ機会は、一般の若手弁護士に比べれば少なかったと思います。そのため、事務所外で先輩弁護士と接点を持ち、業務に関して学ぶ機会をより多く持ちたいと考えていました。そのとき、新人研修で配られた冊子で弁護士業務部という研究部があることを知り、興味を持ったのがきっかけです。

実際に入ってみると、人脈も広がりましたし、分からないことも色々とお相談させていただいています。また、部員にはインハウスなど多様な弁護士がいますので、それぞれ先輩弁護士の姿を拝見できることもとても勉強になります。

#### —— 一番思い出に残っている活動を教えてください。

印象に残っている活動は、（他の弁護士の）法律事務所訪問です。

訪問させていただき、お話をお伺いするとともに、事務所内部を見させていただくと、各弁護士のカラーや姿勢が

事務所のレイアウト等にも反映されていることがわかりました。例えば、教育に関する問題に取り組まれている弁護士の事務所では、子どもも喜ぶような工夫がなされてましたし、非常に合理的な考えをされる弁護士の事務所は、徹底的に無駄を省いたシンプルな構造になっていました。

学生や修習の頃とは違い、弁護士になると、個人的に色々な事務所を訪問させていただく機会はあまりありません。ですが、法律研究部である弁護士業務部という看板があれば、皆さん快く受け入れてくれます。このように色々な事務所を見ることができるのも弁護士業務部の利点だと思います。

訪問の際に、訪問先の弁護士のお話もお伺いさせていただいて、刺激を受けるとともに、自分はどういう弁護士になりたいのかを考える大変良い機会になりました。

#### —— 入部を検討している若手に一言。

少人数で頑張っている研究部なので、ぜひ、多くの人に入部してもらえると嬉しいです。私もまだ弁護士4年目ですが、上の期の方は、若手がどんなことに関心があり、何を疑問に思っているのかを知りたいと思っていますし、どのような質問にも丁寧に答えてくださいます。毎回の定例会もできるだけ参加者の負担にならないように運営しております。ぜひ、遠慮なくご連絡ください。

入部して下さる方には、当部は良い意味で柔軟性があり、部員の希望に応じて内容を変えていく研究部ですので、積極的に自分がやりたいことも持ち寄ってほしいですね。一人では勉強が長続きしないけれども、みんなでやれば長続きするという面もあると思いますので、皆で勉強をしたいという方も大歓迎です。

部員個々人の希望に応じてくれる研究部ですので、ぜひ、入部を検討してみてください。